

## 6/28 記者会見

### 1. 内容（※別途資料を説明）

#### ① 「見附未来検討 WG」を設置します

昨年度の職員提案で出てきたもの。政策企画立案できる職員を育成するということを目的に設置する。職員のモチベーション向上も期待している。具体的なことは記載のとおりだが、ワーキングのメンバーは市の職員、もう決まっているが20代から30代の8名が参加する。

また今回たまたま新潟大学工学部の経営共創経営プログラムの4年生2人がインターンで来られるので一緒になって『未来検討 WG』を設置し課題解決に向けた政策提案に取り組む。ちょうど2名なので2グループに分けて実施。一つは政策提案。人口減少なのかSDGsとか特に決めてはいないが様々な課題からテーマを選定し市が今後実施すべき取り組みについて提案していただく。もう一つは職場環境の改善について。スケジュールについては、これから月2回程度集まり議論を重ね、9月末には正副市長、教育長、そして職員も含めたオープンな形で報告会を行いたい。詳細は改めてお知らせする。

#### ② みつけ就職ガイダンスを開催します

最近は見附市内の企業のみが参加する就職ガイダンスをやっていなかったと認識している。商工会や地元企業からの強い声により、今年は商工会議所が主催し見附市も一緒になり7月9日に就職ガイダンスを開催させていただくことになった。対象者は新規の高校卒業予定者で記載のとおり。

#### ③ 未来への手紙「20年後のあなたへ」を返送します

市制50周年事業の時に、現在の想いや20年後に伝えたいことを記した手紙を募集していた。ちょうど20年を経て、今年は市制70周年にあたるのでそれを返送したい。8月中旬に返送し、またそれを受け取った方への取材もできるようにしたい。日程決定後改めてお知らせする。

#### ④ 第56回見附まつり

見附市民が待ちに待っている見附祭りを今年も開催する。テーマは「だれもが参加する喜びを感じる『まつり』」。今年の特徴は花火大会で、花火デザインのワークショップに小学生が参加し一緒に考える。大会当日考えた花火をオリジナルのスターメインとして盛大に打上げる。既に参加者を募集しており明日6月29日が第1回のワークショップとなっている。それから二つ目、「花火師さんに聞いてみるグループ特別講演会」が7月13日アルカディア小ホールで13時半から行われる。

花火自体の寄付についても今年は例年よりも多く集まった。物価高騰などもあるので打ち上げ数が多くなるということまではいかないが、尺玉からスターメインへの変更が多いということなのでこれまで以上に盛り上がることはできるのではないかと考えている。打ち上げ発数は大体例年4000発ということだが、そこは大きく変わらないのではないかとと思う。

## ⑤ 健幸フェスタ 2024

毎年開催しているイベント。ウォークイベントなど様々な健康にまつわるイベントを、今年も31のブースを用意して6月30日にネーブルみつけで実施する。新しいイベントについては記載の通り。料理や認知症対策の運動などが予定されているし、毎年行われている健康ウォークについては、今年は新しく5月29日にオープンした見附駅交流施設「みつける」へも立ち寄るコースを予定している。

## ⑥ 「ネーブルみつけ」が開館20周年

記念フェアということで様々なイベントを開催する。開催イベントは記載のとおり。その中で記念セレモニーについては、7月6日の午前10時半から私どもも参加する形で行いたい。

またこの20周年を契機により一層多くの人たちに喜ばれる施設、市民の皆様、それから外からも来ていただけるような施設にしていければと思っている。

## ⑦ その他

## 2. 質疑応答

質：新潟日報

- ・①番の「見附未来検討WG」ですけれども、これはスケジュールが6月からとなっていますが、先程これからとおっしゃったのですが、6月中にも何か動いたものというのはまだないのでしょうか。

答：市長

- ・既に確かインターンの学生は、もう来ていると思います。

質：新潟日報

- ・この「街歩き」みたいなものは、もうやったのでしょうか。

答：総合政策室長

- ・このインターンの学生については、今月20日過ぎに2日間来ていただきまして実際に見附の街中を歩いたりコミュニティバスを利用したりして散策をしています。もう一つ、職員から成る見附未来検討WGについても、一昨日1回目のWGを開催し今後の進め方みたいところを共有しました。実際の施策の検討については、7月に入ってから始める、そんな状況です。

質：新潟日報

- ・これは職員の方からの提案でできた取り組みだと思うのですが、市長はこれでどういったことを望まれるとか期待されているのかっていうことを、改めて伺いたいのですけれども。

答：市長

- ・募集してぜひやりたいと思ってもらった職員が手を挙げたというふうに思っているのですが、一番大事なものは人材育成。自分から政策立案を企画立案できる、考えていく過程が本当に大事だというふうに思っています。今回のこのワーキングを通して本当に見附のまちのためにどうしていったらいいのか、職場環境をどうしていったらいいのかといったことを、本当にぜひ良い提案を出していただければと思います。

まずは成果の中身というよりしっかり考える過程、そこを大事にしていきたいなと思っております。もちろんいい提案が出て本当に使える、必ずしも使うかどうかというのはまだ決めてはいませんけれども、実際に施策に使えるような提案が出ることを期待はしています。

質：見附新聞

・若手職員 8 名ということですが、これはいわゆる職員に対して公募したみたいなのですか。

答：市長

・はい、公募です。

質：見附新聞

・実際に手を挙げた人は何人いるんですか。

答：総合政策室長

・募集の仕方ですけれども各課に職員を推薦してくれるように依頼をしまして、そこで 8 名を募ったというところです。

答：市長

・若干各課の人数的な調整はしていますけれども無理やり強制して出させたということではないというふうに思っています。

質：新潟日報

・今回の発表の内容とは少し違う件で、担当の課長が居ないなか申し訳ないのですが、他の長岡市とか小千谷市とか周辺の地域でも既に農業の渇水、田んぼの渇水化が結構問題になっていると思いますが、見附市内で何かそういう被害だったり影響だったりって聞いていますか。あがってきていますか。

答：市長

・そのようなことについては、私のところまではまだ聞いてはございません。しっかりと確認するよう指示しています。

質：新潟日報

・今年も猛暑が想定されるので、去年も渇水対策として補助金を出されたりしましたが、それも状況を見て準備していかれたりしますか。

答：市長

・基本的なことを言いますと昨年の補助金というのは、基本的には昨年限りだというふうに思っています。そのためにしっかりと保険に入っていたきたいということで、加入促進・加入支援のための補助金を出させていただいております。最終的にどう判断するかは別として、今のところは昨年の補助金は昨年限りだというふうに現段階では思っています。